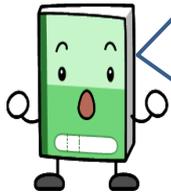


## 「指導と評価の一体化」のための学習評価（中学校外国語のポイント）



### 〈学年ごとの目標〉

- 各学校において、学習指導要領の「教科の目標」及び「領域別の目標」に基づき、生徒の発達の段階と実情を踏まえ、「学年ごとの目標(五つの領域別)」を適切に定めます。
- 資質・能力の三つの柱に分けず、一文ずつの能力記述文(CAN-DO リスト形式)で示すことが基本的な形となります。
- ※「学年ごとの目標」に対応する「学年ごとの評価規準」は、「内容のまとめり(五領域)ごとの評価規準」を踏まえて、三観点で記述します。

### 〈単元ごとの目標〉

- 「単元ごとの目標」…領域別の「学年ごとの目標」を踏まえて設定します。
- 「単元ごとの評価規準」…「単元ごとの目標」を踏まえて設定します。一つの単元ですべての領域・観点について記録に残す評価を行う必要はありません。ただし、各単元で三観点をバランスよく見ることが重要です。
- 「単元ごとの目標」及び「単元ごとの評価規準」は、各単元で取り扱う題材や、言語の特徴や決まりに関する事項(言語材料)、当該単元を中心となる言語活動において設定するコミュニケーションを行う目的や場面、状況、取り扱う話題などに即して設定します。

### 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 第3編 単元ごとの学習評価について より

#### 単元名

まとめりのある文章の必要な情報を読み取ったり、概要や要点を捉えたりする  
(第2学年 3学期)

#### 内容のまとめり

##### 「読むこと」

- イ 日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の概要を捉えることができるようにする。
- ウ 社会的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の要点を捉えることができるようにする。

各単元の領域別の目標は五つの領域のうち、一つ(多くとも二つ)に絞り込み、学年のどの目標とつながっているのかを明らかにします。

#### 1 単元の目標

あるテーマについての英文を読んで概要、要点を捉えるとともに、その内容を基に自分の意見や考えを伝え合ったり、意見文を書いたりすることができる。

外国語科では、**三観点を五つの領域ごと**に評価します。

#### 2 評価規準(「読むこと」の評価規準)

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
読むこと	<知識> ・比較表現や受け身に関する事項を理解している。	あるテーマについての他者の意見を知り、自分の意見や考えを伝えるために、英文の概要、要点を捉えている。	あるテーマについての他者の意見を知り、自分の意見や考えを伝えるために、英文の概要、要点を捉えようとしている。
	<技能> ・比較表現や受け身などの意味や働きの理解を基に、英文の内容を読み取る技能を身に付けている。		

○「思考・判断・表現」を評価するための**目的・場面・状況**があります

○基本的には「思考・判断・表現」と**一体的に評価**します

○<知識>と<技能>を分けて書きます。

- <知識>は、具体的どのような英語の特徴やきまり(言語材料)を理解している状況かを書きます。
- <技能>は、その**知識を活用して何をする技能が身に付けている状況か**を書きます。

#### 〈「主体的に学習に取り組む態度」について〉

- ・生徒の挙手回数などを評価するものではありません。
- ・「主体的に学習に取り組む態度」だけを取り出して評価することは行いません。
- ・学習活動を通して身に付けた態度を評価します。よって、単元の導入時や各授業の冒頭での評価は適切ではありません。

### 3 指導と評価の計画（6時間）

本時例は「読むこと」を取り上げていることに鑑み、以下の「指導と評価の計画」では、「読むこと」の指導に焦点を当てています。表中「○」が付されている時間は、極力全員の学習状況を記録に残すよう努めますが、確実に全員分の記録を残すのは後日行うペーパーテストの機会とします。なお、○が付されていない授業においても、指導の改善や生徒の学習改善に生かすために、よい姿を示している生徒や課題がみられる生徒の学習状況（例：タイトルから予想したり、表やマッピングを活用したりして、要点や概要を捉えているか）を確認することは重要です。確認結果は単元や学期末の評価を総括する際に参考にすることができます。

時間	ねらい■・主な言語活動等（丸数字）	知・技	思・判・表	態度	備考
1 2	<p>■教科書本文から必要な情報を読み取り、読み取った内容を伝え合う。</p> <p>①教科書本文を読む際の一般的な読み方の学習として、以下のことを学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本文を読む前に質問を読み（聞き）、予想をする。</li> <li>・予想が合っているかどうか本文を読んで確認する。</li> </ul> <p>②本文の中で、比較表現がどのように使われているかを確認し、比較表現を使って本文を要約して話す。</p> <p>③自己目標を設定する。（第1時）</p>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時以降、帯活動として5～10分程度、初見の短い英文（200語程度）を読む活動などを行い、継続的に読む力を育成することも考えられる。</li> </ul>
3	<p>■教科書本文の要点を捉え、書き手の最も伝えたいことを伝え合う。</p> <p>①教科書本文（第1、2時の続き）を読んで、書き手の最も伝えたいこと（要点）を捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本文のタイトルから要点を予想する。</li> <li>・本文を読んで予想があっていたかを確認する。また、要点だと判断した根拠となる英文を選ぶ。</li> </ul> <p>②第1～2時の②と同じ活動に繰り返し取り組む。</p>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2時から第6時の学習の振り返りは適宜行わせる。</li> </ul>
4	<p>■教科書本文の概要や要点を捉え、伝え合う。</p> <p>①教科書本文（第3時の続き）を読み、要点や概要を捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・概要を捉えるために、本文内容を表にまとめたり、マッピングを作成したりする。</li> <li>・要点を捉えるために、タイトルから予想したり、各段落にタイトルを付けて比較したりする。</li> </ul> <p>②内容を整理した表を使い、本文内容とその内容に対する自分の考えなどをペアで伝え合う。</p>				<p>○記録に残さない活動や時間においても、<b>生徒の学習状況を確認</b>します。</p> <p>○ねらいに即して生徒の活動の状況を<b>確実に見届けて指導に生かす</b>ことは毎時間必ず行います。</p> <p>○活動やせているだけにならないよう十分留意します。</p>
5	<p>■教科書本文全体のテーマについて自分の考えなどを伝え合う。</p> <p>①教科書本文で比較表現がどのように使われているかを再度確認した上で、教科書本文全体のテーマに対する自分の考えを、本文に書かれていることを引用しながら、複数のペアと伝え合う。</p>				

	②伝え合ったことを踏まえ、自分の考えを再構築し、その内容を書く。					「思考・判断・表現」を評価するためには、コミュニケーションを行う「目的」「場面」「状況」の設定が必要です。
6	<p>■意見文を読んで、概要や要点を捉え、自分の感想や考えを伝え合う。</p> <p>① 科書本文のテーマについて教師が書いた意見文を、第3、4時に学習した読み方で読み、概要や要点を捉える（ワークシート）</p> <p>②書き手（教師）が一番伝えたいことに対する自分の考えなどを、引用しながら複数のペアと伝え合う。</p> <p>③自己目標の達成状況を振り返り、次の課題を明確にする。</p>		○	○		<p>・活動の観察及びワークシートへの記述内容により評価する。</p> <p>記録に残す評価は、<b>十分な指導を行ってから行うことが大切です。</b></p>
後日	ペーパーテスト（3学期末）	○	○	○		

上記「指導と評価の計画」で示した指導に加え、読み取る内容に応じて、次のような指導を行うことが考えられます。

■必要な情報を読み取る場合

- ・目的や場面、状況などを設定し、自分が必要とする情報（数字や天気などのキーワード）が何か意識させてから読ませる。

■概要を捉える

- ・ペアで「5W1H」について質問し合いながら読ませる。
- ・図や表にまとめながら読ませる。
- ・時系列で書かれた文章は、時を表す語句に着目させて読ませる。
- ・各段落の最初の1～2文をまず読ませる。

■要点を捉える

- ・筆者の伝えたいことは何かを予想させたうえで、読ませる。
- ・So, Therefore, In conclusion など結論等を表す語句に着目して読ませる。

できていない生徒へのフォローを忘れずに行います。  
評価の場面は1回では終わりません。  
学習評価は生徒に自信をつけさせるものです。

これらの指導をしても読み取ることができない生徒に対しては、例えば以下の指導が考えられます。

- ・読む前に、絵や図に書かれていることについて生徒とやり取りをしながら、文章のキーワードに気付かせる。
  - ・読む前に音声を聞かせる。
  - ・物語などを読む際には、展開に合わせて絵を並べ替えさせる。
  - ・意味のかたまりごとに英文にスラッシュを入れさせて（またはスラッシュを入れた本文を）読ませる。

#### 4 ペーパーテストの作成に当たって

「3 指導と評価の計画」で示した後日行うペーパーテストとして、第2学年3学期末のペーパーテストで出題する問題について、その作成方法を以下に示します。なお、本事例では「読むこと」を取り上げていますが、以下に示す内容は、「読むこと」だけでなく、同じ理解の領域である「聞くこと」にも対応しています。

〈ペーパーテストの作成方法〉

- ①当該学年や当該単元の「聞くこと」及び「読むこと」の目標を確認する。
  - ②ペーパーテストで出題する問題により評価すること（必要な情報を読み取る／聞き取ること、概要を捉えること、要点を捉えること）を、当該学期で指導した内容を踏まえて明確にする。
  - ③評価することに応じてテストを作成する。
- ※なお、「思考・判断・表現」を評価する問題には、当該学期で扱った言語材料を必ず使用しなければならないわけではありません。一方で、「知識・技能」の問題では特定の言語材料を必ず使用して作成します。

「読むこと」の「思考・判断・表現」と「知識・技能」を評価するペーパーテスト例は『国立教育政策研究所 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料P.60-62』に掲載されています。ぜひご確認ください。

**5 観点別学習状況の評価の進め方**

3学期末のペーパーテスト（期末テスト）で、例えば「思考・判断・表現」を評価する問題を3問出題した場合、正答数により当該ペーパーテストの結果を以下のように評価することが考えられます。

	「思考・判断・表現」の評価結果
3問とも正解だった場合	a
1～2問正解だった場合	b
3問とも不正解だった場合	c

記録に残す評価を行うまでに、生徒が「b」の規準に達するよう指導をしていることが重要です。つまり、生徒ができるようになった状態を評価します。

以上のペーパーテスト（後日行ったペーパーテスト（期末テスト））の結果に、他課における評価結果（ワークシート等への記述内容）を勘案し、3学期の「読むこと」の評価を総括した例を以下に示します。

	他課の結果	3学期末のペーパーテスト		「読むこと」の評価結果	他の領域の評価結果	3学期の観点別評価
		「知識・技能」を評価する問題の結果	「思考・判断・表現」を評価する問題の結果			
知	b	a	—	a	(a～c)	(A～C)
思	b	—	b	b	(a～c)	(A～C)
態	b	—	b	b	(a～c)	(A～C)

前時の評価場面で十分でなかった生徒もその後の指導でできるようにして見とれるように配慮します。  
(b)と判断して終わらず、指導改善・学習改善を継続的に行います。

他課及び3学期末のペーパーテストにおける「主体的に学習に取り組む態度」は、「思考・判断・表現」と一体的に評価した場合の例を示しています。